

科目	発達臨床心理学(福・心)	単位数	2
担当教員	櫻井 秀雄		
履修対象	社会福祉学科3年秋学期・心理科学科2年秋学期		
目的	人間の発達過程における心理学的障害、とりわけ、集団適応が困難な自閉スペクトラム症(広汎性発達障害)、特異的発達症(学習障害)、注意欠如/多動症等の臨床的特徴、研究史及びその社会的・認知的・行動的・情緒的障害に対するアプローチについて、現状での問題点を様々な最近の研究から明らかにし、より統合的アプローチについて論究する。理論的な解説のみならず、可能な限り具体的な事例を取り上げて論じる。特に、自閉スペクトラム症については、高機能自閉スペクトラム症とアスペルガー症候群および強度行動障害に対する臨床心理学的アプローチを、注意欠如/多動症については被虐待体験との発達の関連を取り上げ、最近の知見を紹介する。具体的には、発達臨床、つまり小児医療や保健、さらには児童福祉や特別支援教育に携わる心理臨床家に必要な知識と技術を習得することを本講の目的とする。		
達成目標	<p>「関心・意欲・態度」 (1) 受動的ではなく自ら学ぶ意思を示す。</p> <p>「思考・判断」 (1) 他人に言われるのではなく自ら学ぼうとする。</p> <p>「技能・表現」 (1) 障害を引き起こす原因、障害者(児)の症状、行動や心理を講義することで、日常の具体的支援の気づきにつなげていく。</p> <p>「知識・理解」 (1) 障害を引き起こす原因、障害者(児)の症状、行動や心理を理解する。 (2) 自閉スペクトラム症およびその周辺の発達障害への治療・教育的介入と環境との関連性について知る。 (3) 発達障害児の認知発達と環境との関連性を、彼らの「二次障害」から理解することで、そのアイデンティティ形成への臨床心理学的支援方法を知る。 (4) 児童虐待問題において「発達障害」の関連性が取り沙汰される昨今、被虐待児の認知発達の病理とそれに対する治療教育的介入は、被虐待児支援に於いて重要視されてきていることを理解する。</p>		
授業計画			
1	発達と発達臨床		
2	発達診断と発達援助		
3	神経発達症1/知的発達症		
4	神経発達症2/自閉スペクトラム症(広汎性発達障害)		
5	神経発達症3/高機能自閉スペクトラム症とアスペルガー症候群		
6	神経発達症4/強度行動障害と自閉スペクトラム症		
7	神経発達症5/特異的発達症(学習障害)		
8	神経発達症6/注意欠如/多動症とDBDマーチ		
9	自閉スペクトラム症への行動療法		
10	自閉スペクトラム症へのTEACCHプログラム		
11	自閉症スペクトラム障害への太田のステージによる認知発達治療		
12	発達障害児への感覚統合訓練		
13	自閉スペクトラム症への対人関係指導法(DRI)とグループ余暇活動支援		
14	自閉スペクトラム症への遊戯療法とその限界		
15	児童虐待における愛着障害と神経発達症		
授業形態	原則、講義形式であるが、時に発達障害児・者の臨床活動へボランティア(イルカ介在療法を含む)として参加したり、本学心理・教育相談センターでの発達検査へ陪席する機会を与える。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
発達臨床心理学ハンドブック	大石史博・西川隆蔵・中村義行 編	ナカニシヤ出版	2730円
参考書			
成績評価の基準	授業終了時にレポート試験を行う。そのレポートは講義内容を概念化して整理するだけでなく、実際の臨床活動にボ		

方法	ボランティアとして参加することで、授業で培った知識・技術の実践を報告することを含む。		
留意点	講義を通じて培った知識・技術を臨床的に生かし、最終的にレポートにまとめるため、発達障害児・者の支援活動へボランティアとして参加したり、本学心理・教育相談センターでの発達検査へ陪席することを奨励する。		
準備学習	授業には真剣に取り組んでほしい。特に他の受講者に迷惑を及ぼすような態度・行動は厳に慎むこと。 また、毎回の講義についてのノートおよび配付する資料は大切に保管し、必ず、復習して、次回に臨むこと。		
備考	講義テーマ等については、変更や入れ替えの可能性がある。	No.	SW121007・ PY621001